

羽鳥湖

はとりのこ

周囲16km、最大水深31.2m、総貯水量200万³m³の人工湖。水不足に悩む矢吹ヶ原一帯のかんがい用及び発電用として、昭和31年に完成。鶴沼川をせき止め、約15年の歳月をかけて造られました。以来、村を代表する豊かな自然のシンボルとして親しまれています。「羽鳥湖」の名前の由来は、ダムを造るにあたってダムの底に沈んだ羽鳥集落からつけられています。

現在では、湖周辺はサイクリングロードやオートキャンプ場などが次々と整備され、リゾートエリアとして、注目を集めている観光スポットの一つです。



釈迦堂川

しゃかどつがわ

福島県を南北に流れる阿武隈川の支流。竜生ダムの上流に源を発する流れは、途中、国道294号と平行して東へ向かい、沖内地区で竜田川と合流、さらに須賀川市に入り、阿武隈川に合流します。

通称「廣戸川（ひろとがわ）」とも呼ばれ、昔から地域の人々の暮らしに深く関わり、親しまれてきました。村に古くから伝わる河童の物語りも、ここ釈迦堂川が舞台になっています。沖内地区の川沿いには、物語りにちなんで、河童の像が愛嬌たっぷりにたたずんでいます。



鶴沼川

つるめがわ

県道白河・羽鳥線、天栄村と西郷村との村境に「鶴沼」という沼があります。鶴沼川由来の沼です。鶴沼川は、大川（阿賀川）、阿賀野川を経て、新潟県側の日本海に注ぎます。

この川の上流にあたる羽鳥湖周辺から、流れは西へ西へと向かい、岩瀬湯本温泉を通過して大川に合流し、会津盆地へと流れます。

湯本温泉の付近の流域には東北電力鶴沼川発電所ダムも。

澄んだ水にはイワナやヤマメなどの代表的な川魚も多く、四季折々の自然とともにフィッシュシャーマンの姿を見かけます。

